

「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業 合同宿泊研修のご報告

この度、沖縄平和協力センター（OPAC）では沖縄県が主催し沖縄県平和祈念資料館が主管する「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業を受託し、先日合同宿泊研修を無事に全日程終えましたのでご報告いたします。

事業概要： 別掲載の事業概要をご覧ください。
期間： 令和元年（2019年）10月11日（金）～20日（日）
実施場所： 沖縄県平和祈念資料館（主研修会場）
沖縄県立博物館・美術館 講堂（成果報告会・シンポジウム会場）

他

参加人数：	沖縄	学生5名	
	韓国	学生5名、引率者1名	
	カンボジア	学生5名、引率者1名	
	台湾	学生5名、引率者1名	
	ベトナム	学生5名、引率者1名、通訳1名	計30名

当研修では琉球大学の高良倉吉名誉教授、沖縄県平和祈念資料館友の会の仲村誠様、ひめゆり平和祈念資料館の古賀徳子学芸課長、沖縄県平和祈念資料館の金城篤主査、沖縄平和協力センターの大濱磯子主任研究員、反戦資料館「ヌチドゥタカラの家」の謝花悦子館長、そして沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授に講義をしていただきました（日程順、以下同じ）。また、県内での視察活動も盛んに行い、ひめゆり平和祈念資料館、沖縄県平和祈念資料館、嘉数の高台、そして反戦資料館「ヌチドゥタカラの家」を訪れました。そして10月16日には沖縄県庁で謝花喜一郎副知事を表敬訪問しました。この様子は沖縄県内主要メディア各社から取材を受け、報道されました。



研修中には講義や視察に加え、学生達の間でディスカッションも行われました。学生たちはここで互いの国での戦争体験やそれを未来へ継承する努力がどう行われているかといった情報交換を行いました。出身国を混ぜた班ごとのディスカッション



では積極的な意見交換が見られ、互いの国の平和教育体制や理念についての相互理解が深まりました。また、この班ごとのディスカッション内容をプレゼンしてもらい、発見や考え方を広く共有できたことも成果として挙げられます。このように様々な考え方に触れられたことは各学生の今後のキャリアでも大いに役立ち、人材育成においても当事業では十分に貢献できたと考えています。

10月19日には沖縄県立博物館・美術館の講堂で成果報告会・シンポジウムを開催し、第一部では各国の紛争とそれを踏まえた平和教育、また現在抱える課題や改善点についても発表しました。第二部では沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授をファシリテーターとして迎え、今回の研修で学んだことなどに関してシンポジウム形式で話しました。最後に、今回の研修を通して平和、そして戦争の記憶継承活動の重要性、理念、抱える課題などを学生たちは共同宣言としてまとめ、発表しました。シンポジウムの様子も沖縄県内主要メディア各社から取材を受け、報道されました。また、このシンポジウムについては事前に各種メディアや県内の高校・大学・教育機関で広報をしており、百人前後の一般の参加者にご来場いただきました。



OPAC では正式な事業報告書を現在作成中であり、完成次第お知らせいたします。

最後になりましたが、ご支援ご協力いただいた皆様には略式ながら厚く御礼申し上げます。